



# たいしも通信

シリーズ第17回目となる今回は、小月基地の戦果(!?)です。もちろんそこに所在した部隊の戦果、ということになります。

## ◆小月基地おさらい

小月基地は当初、通信省(当時の郵便、通信、運輸を管轄する中央官庁)下関飛行場として着工し、1940年(昭和15年)に移管され下関陸軍飛行場となり、大刀洗(現在の福岡県三井郡大刀洗町、朝倉郡筑前町と朝倉市にまたがっている)飛行場から飛行第4戦隊が移駐し、終戦まで北九州の防空任務に就くこととなります。

## ◆飛行第4戦隊について

当時世の中にはほとんど空軍が存在していなかったため、航空機を扱うのは海軍か陸軍です。飛行第4戦隊は帝国陸軍の部隊で、1938年(昭和13年)に福岡県芦屋町で編成、当初の上級部隊は第1飛行集団司令部でしたが1942年(昭和17年)に組織改編により第1航空軍司令部となり、その中に第19飛行団が編成され、そこに飛行第4戦隊が組み込まれます。その後1944年(昭和19年)にはさらに第6航空軍司令部となり、隷下に第12飛行師団が編成され、その司令部も小月に所在し、飛行第4戦隊はその隷下となりま

## ◆飛行第4戦隊の活躍

### 【松崎少佐散華の地】顕彰碑

下関市菊川町大字下大野の木屋川に沿った道路沿い(山際)に碑があります。松崎真一少佐は福岡県出身で、1945年(昭和20年)に

小月に赴任、同年7月、米軍機を迎撃すべく四式戦闘機「疾風」で向かいますが撃墜され、24歳で戦死されました。墜落現場近くに「松崎少佐散華の地」と記した顕彰碑が建てられています。平成15年(2003年)建立。揮毫者は当時の第25代小月教育航空群司令の和田1佐です。『由来の記』によると、「米軍機グラマン六機を迎撃せんと友軍機疾風十三機は小月飛行場を発進(中略)、少佐機は不幸にも豊東小学校上空で被弾し下大野三町川上流沿いの山中に撃墜 名譽の戦死を遂げられた」とあります。

### 【体当たり勇士の碑】

次は北九州となりますが、場所は八幡西区さつき台1丁目13-10。松崎少佐散華の1年前、1944年(昭和19年)中国からB-29が飛来します。編隊が八幡市折尾上空にさしかかった時、飛行第4戦隊所属の野辺重夫陸軍准尉と高木傳蔵陸軍軍曹が搭乗する二式複座戦闘機「屠龍」が迎撃するも撃墜には至らず、このままでは北九州に爆弾投下は必至となり、「野辺今から体当たり」の一語を残し敵機のやや斜め前方より第2梯团长機を目がけまっしぐらに体当たりを敢行します。一瞬間機は一塊となって空中に浮かび、B-29は火を噴き錐揉状態になって落下、その爆破片が後続の別のB-29の翼に触れ空中分解し現在の永犬丸小学校運動場あたりの谷間に激突・爆発炎上しました。この戦闘は多くの人に目撃され、その後墜落の地に、折尾の町民、学生が手造りで慰霊碑を建立、今日まで毎年8月の第1日曜日には地域の自治区会や当時の少年飛行兵の皆さんによって清掃作業が行われ、折尾神楽が慰霊奉納されています。

### ▼▼編集後記▲▲

この当時の体当たりとは極力生還して再度戦いに臨む、とされていたようで、実際稀にですが再出撃された方もいたそうです。例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。